

茨城大学学報

第304号

平成24年8月～平成24年9月



共通教育棟1階中庭の様子（水戸キャンパス）

INDEX

- ◆ 「第52回水戸黄門まつり」に7年連続で参加
- ◆ 子ども霞が関見学デーに参加
- ◆ 就業力育成シンポジウムを開催
- ◆ 野口高明教授(理学部)が新種の地球外物質「Hoshi」を確認
- ◆ 「法人文書管理等に関する説明会」を開催
- ◆ 日本インカレ“女子三段跳び”で遠藤園子選手(教育学研究科1年)が優勝!
- ◆ 3大学(宇都宮大学、福島大学、茨城大学)学長懇談会を開催
- ◆ インドネシア共和国の三大学とサマーコースを実施
- ◆ 教育学部附属中学校で「志多ら」による和太鼓演奏会を開催
- ◆ 「岡倉天心記念六角堂等復興基金」へ(株)筑波銀行から寄付
- ◆ 平成24年度茨城大学学位記授与式を挙

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 「第52回水戸黄門まつり」に7年連続で参加

本学は、8月4日（土）に水戸市で開催された「復興・振興元年！第52回水戸黄門まつり・市民カーニバル in MITO」に、毎年「夏の思い出にみんなで踊ろう」のキャッチフレーズの下、7年連続で参加しました。

第52回水戸黄門まつりには全体で41チーム（約3,650人）が参加し、本学からは山本恵一事務局長を先頭に木村誠財務課長、山内浩一企画課長、齋藤勝男社会連携課長及び陸名明学務課長を含め50名以上の教職員と40名以上の学生が参加し、水戸中央郵便局前～大工町交差点間を午後4時30分から約4時間をかけて踊りました。

また、六角堂復興担当の三輪五十二特命教授も、再建の報告とご支援をいただいたお礼を兼ねて、昨年に引き続き参加しました。さらに、2013年に公開予定の映画「天心」の松村克弥監督にも応援していただき、のぼり旗とうちわ千枚を用意して積極的にアピールを行いました。その他に、現在一橋大学の草薙公総務課長（元茨城大学企画課長）や放送大学の柏村貞和事務室長（元茨城大学人文学部事務長）なども応援に駆けつけました。

今年の学生は例年より留学生が多く、中国、韓国、インドネシア、マレーシア、タイ、アメリカやオーストラリアからの参加で、国際色豊かなカーニバルとなりました。

今年は黄門賞の受賞と審査員の評価アップを目標に、衣装等を全員揃えての参加でしたが、残念ながら参加賞という結果になりました。

最後に、大学で開催した懇親会では初参加の教職員・学生から「参加して本当に楽しかった。思い出になりました。」という声が多数聞こえ、来年も全員で参加することを誓い合いました。



木村誠財務課長（左）と山本恵一事務局長（右）



参加した学生及び教職員による記念撮影

◆ 子ども霞が関見学デーに参加

本学では工学部技術部職員の協力のもと、平成24年8月8日（水）に開催された平成24年度「子ども霞が関見学デー」に「茨城大学ともの作りの楽しさを発見しよう！」と題して科学・理科体験教室に参加しました。

本学の「立体万華鏡を作ろう！」「荷造り用PPテープでセパタクロールを作ろう！」の2つのプログラムでは、開始から子どもたちが列を作り、サンプルを見ながら自分の作るものを考え、順番が来るのを心待ちにしていました。

工学部技術部職員の指導により、自分の手で万華鏡やセパタクロールを作ると、「どうしてこんな模様ができるのか不思議」、「難しかったけど、とってもきれいにできた」など笑顔で感想を話してくれました。今年度、初めて参加した本学は、日程の都合で初日のみの参加となりましたが、約200名の参加者に”モノづくり”の楽しさを伝えることができました。



”モノづくり”を体験する親子



真剣にセパタクロールを作成中

◆ 就業力育成シンポジウムを開催

大学教育センター（佐藤和夫センター長）の主催による、就業力育成シンポジウムが平成24年8月20日（月）東京の学術総合センターにおいて、学内外65名（学外者39名）の参加のもと開催されました。

本学は、平成22・23年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」GPに採択され、従来の大学教育に加えて「学生の自発的学びを後押しし、社会で活躍する為の基盤となる能力」を「根力（ねぢから）」と定義し、就業しても役立つ体系的なカリキュラム開発の構築を展開してきました。本シンポジウムは、「根力育成プログラムの実質化と展開」と題し、2年間の成果報告を中心に行いました。

成果報告に先立ち、東京大学大学院小方直幸准教授による基調講演「大学教育と就業力の育成」が行われました。続いて、GPの成果として、人文学部鈴木敦教授による「茨城大学根力育成プログラムについて」、大学教育センター蜂屋大八准教授による「PBL科目の開発について」、(有)ラーニングアイ新堀道信氏による「ポートフォリオの開発について」が報告されました。

終了後のアンケートでは、「取り組みに関して、大学職員が一丸となることのむずかしさ、新しい企画での大変さを学べた」あるいは、「事例報告がとても興味深く参考になった」などの評価があった一方で、「事例報告は実際の活用事例の話をメインにしてほしかった」「理想に向けて頑張っておられる内容は大変勉強になったが、「実行」という観点では少々疑問が残る」などの今後の発表の仕方や取り組みに向けての注文も寄せられました。



学内外65名の参加者が集まった就業力育成シンポジウム



基調講演を行う小方直幸東京大学大学院准教授

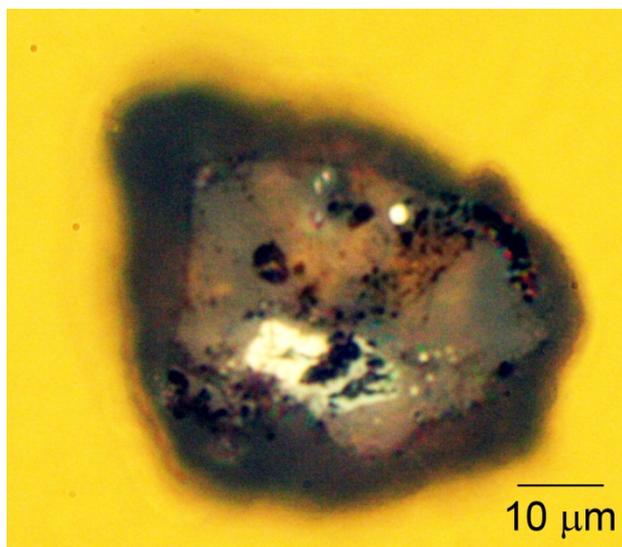


挨拶をする田代尚弘茨城大学副学長

◆ 野口高明教授(理学部)が新種の地球外物質「Hoshi」を確認

野口高明教授(理学部)が宇宙航空研究開発機構(JAXA)との共同研究によって、これまでにない鉱物学的特徴を持つ新種の地球外物質「Hoshi」を確認しました。

この新種の地球外物質は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発し国際宇宙ステーション(ISS)に搭載した、微小粒子捕獲実験及び材料曝露実験(MPAC&SEED)において、2005年に回収した微粒子で、野口教授は微粒子が捕獲されたISSサービスモジュール「Zvezda(ズヴェズダ)」(ロシア語で[星]の意味)にちなみ、この物質を「Hoshi」と命名しました。



発見された新種の地球外物質「Hoshi」



野口高明教授(理学部)

◆ 「法人文書管理等に関する説明会」を開催

平成24年9月6日(木)、共通教育棟11番教室において「法人文書管理等に関する説明会」が開催されました。この説明会は、平成23年4月に「公文書等の管理に関する法律(公文書管理法)」が施行され、本学文書管理規則が制定されたことに伴い、法人文書を適正に管理するための知識や技能を習得することを目的として行われたものです。説明会の模様は、VCS(バーチャル・キャンパス・システム)にて日立キャンパス及び阿見キャンパスへも配信され、3キャンパスで総勢103名が聴講しました。



説明会の様子



説明を行う三浦総務係長

◆ 日本インカレ“女子三段跳び”で遠藤園子選手(教育学研究科1年)が優勝!

9月9日から12日まで、国立競技場で開催された天皇賜盃 第81回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)において、本学陸上競技部に所属する遠藤園子さん(大学院教育学研究科1年)が女子三段跳びで優勝いたしました

難しい風条件の中、自己記録を大幅に更新しての優勝でした。茨城大学の選手の優勝は58年ぶりです。他にも、山口真未さん(教育学部人間環境教育課程健康コース3年)が七種競技で2年連続の8位入賞を果たしました。

以下、遠藤園子さんのコメント

『毎年悔しい思いをしてきましたが、今年初めて優勝することができました。憧れの国立の地で良い跳躍ができとても嬉しく思います。応援やサポート、ご指導をしていただいた先生方、先輩方、チームメイト、家族に感謝したいです。』



表彰台の一番上に登る遠藤園子選手(中央)



学長と記念撮影をする遠藤選手(右)と顧問の渡邊准教授(左)

◆ 3大学（宇都宮大学、福島大学、茨城大学）学長懇談会を開催

近接する3県（栃木県、福島県、茨城県）にある3大学の学長（宇都宮大学 進村武男学長、福島大学 入戸野修学長、茨城大学 池田幸雄学長）が共通の課題及び大学間連携協力等について話し合う、3大学学長懇談会が、本学が当番校となり9月14日（金）に開催されました。

懇談会の前に、昨年の東日本大震災時の津波により流失し、この4月に創建当時の姿に再建された、五浦美術文化研究所「六角堂」の復興に関して、再建の指揮を執った三輪五十二特命教授による特別講話があり、その後、六角堂の流失から再建までを記録したDVDを視聴し、各学長とも震災復興への取組に対する決意を新たにしました。

その後、行われた懇談会では、「東日本大震災後の大学の取組」、「大学の機能強化」、「最新の中教審答申」、「給与減額特例法及び退職金問題に関連した人件費削減対応」、「公務員制度改革」等、最近の国立大学を取り巻く状況について、各大学の取組や今後の対応策等について、予定時間をオーバーして熱心に懇談が行われました。

なお、平成25年度は、宇都宮大学が当番校となり開催される予定となっています。



懇談会の様子（左から、進村宇都宮大学長、池田茨城大学長、入戸野福島大学長）

◆ インドネシア共和国の三大学とサマーコースを実施

大学院農学研究科では、副専攻プログラム「地域サステナビリティの実践農学教育」の一環として、インドネシア共和国でのサマーコースを実施しており、今年もガジャ・マダ大学、ボゴール農科大学、ウダヤナ大学へ9月16日から9月21日まで教職員、学生を派遣しました。

今回のサマーコースでは、相手大学のインドネシア人学生と日本人学生の混成グループを作り、各グループで研究課題を設定し、訪問先での実験やインタビュー、それらを基にしたグループディスカッション、プレゼンテーションなどを学生主体で行いました。全ての行程においてインドネシア人との英語での積極的なコミュニケーションが求められるため、初日こそ日本人学生は緊張した顔を見せていたが、相互交流を通じて徐々に変化が見られるようになりました。

参加した学生からは、「現地で実験をしていると予想外のことも多く起こったが、その場の環境でできる方法で物事を進めていく、何とかして解決していこうという姿勢を持つことができた」「海外なんて行かなくても日本だけでいいと思っていたが、インドネシアと日本との違う部分を知って、やっぱり外にも目を向けた方がいいと思った。インドネシア人とのコミュニケーションが予想以上に楽しかったことが、きっかけだったと思う」という感想が寄せられました。

農学研究科ではサマーコースの様な実践型の海外交流プログラムを通して、今後も多くの学生が「外向き」の力を身につけていくことを期待しています。

なお、サマーコースでは他大学からの参加も積極的に受け入れており、今年は筑波大学、琉球大学、北海道大学、山形大学の学生も参加しました。



バリの棚田にて（ウダヤナ大学）

◆ 教育学部附属中学校で「志多ら」による和太鼓演奏会を開催

平成 24 年 9 月 18 日（火）に教育学部附属中学校で、文化庁主催「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」として、「志多ら」による和太鼓演奏が行われました。「志多ら」は本公演に先立って、6 月 20 日（水）にワークショップとして、本校 1 年生を対象に本公演の際、皆で踊る「花まつり志多ら舞」の実技指導を行いました。団扇を持参しての舞となるため、本校パソコン部がオリジナルデザインを打ち出し、団扇を作成し、本公演に備えました。

本公演は創作曲である「神馬」から始まり、「明神山」、獅子と道化役の寸劇、太鼓体験コーナー、直径 105 cm もある大太鼓の演奏、「屋台囃子」、みんなで踊る「花まつり志多ら舞」とテンポよく演目が進み、あっという間に 1 時間 30 分の演目が終了しました。今回は司会やお礼の言葉も生徒主体で行い、生徒からはアンコールも飛び出し、さらにもう一演奏していただき、大盛況で幕を閉じました。

生徒からは「今まで太鼓はただリズムをとるだけの楽器だと甘く思っていたのですが、今日の演奏では太鼓からメロディーが聞こえてきて、私の考えを覆しました。」といった伝統芸能への新しい思いを持った声や「お腹の底の方や身体の骨に大太鼓のずっしりした音が響いてきて圧倒されました。」といったそのエネルギーに感嘆させられた声などが多く聞かれました。教育学部附属中学校では今後もこうした機会を通して、生徒たちの感性を磨いていきたいです。



「志多ら」の実技指導により、太鼓を叩く附属中学校の生徒たち

◆ 「岡倉天心記念六角堂等復興基金」へ（株）筑波銀行から寄付

9月21日（金）に（株）筑波銀行（藤川雅海頭取）より、本学に「岡倉天心記念六角堂等復興基金」として、300万円が贈呈されました。

同行は、震災からの復興支援に積極かつ継続的に取り組んでいくことが地域金融機関の使命と捉え、地域社会や地域経済の面的な復興・再生に貢献するために、地域復興支援プロジェクト『あゆみ』を推進しており、今回、その一環として本学の岡倉天心記念六角堂等復興基金へ寄付されました。

池田学長は、「六角堂の再建工事は無事完了したが、頂いた寄付は天心邸や長屋門の修復、日本美術院研究所の再建や復興の記録を後世に残すための記念館の建設も視野に入れ、有効に活用していきたい。」と語りました。

本学と（株）筑波銀行は、今回の岡倉天心記念六角堂等復興基金への寄付をきっかけに、今後は本学に事務局を置く『茨城県北ジオパーク』の取り組みなどについても連携協定を結び、県北地域の振興に寄与するために協力することを確認しました。



目録の贈呈（左から池田学長、藤川頭取）

◆ 平成 24 年度茨城大学学位記授与式を挙行

平成 24 年 9 月 27 日（木）、茨城大学茨苑会館 第 7・8 集会室において平成 24 年度茨城大学学位記授与式を挙行し、課程博士 6 名、課程修士 4 名、課程学士 21 名の計 31 名に学位記が授与されました。

列席者が見守る中、修了・卒業生に対して、池田幸雄学長から学位記が授与され、「学位取得に至るまでの修了・卒業生らの努力を賞賛するとともに、急速に変化する現代社会において、本学で培った知識・経験を生かして、活躍されることを期待している。」との告辞が述べられました。

また、学位記授与式終了後、理工学研究科博士後期課程修了生と、池田学長はじめ神永理事・副学長（学術担当）、米倉理工学研究科長、堀副研究科長との懇談会が開催され、池田学長からは各々激励の言葉が述べられ、門出を祝いました。



学位記を授与する池田学長



懇談会終了後の記念撮影